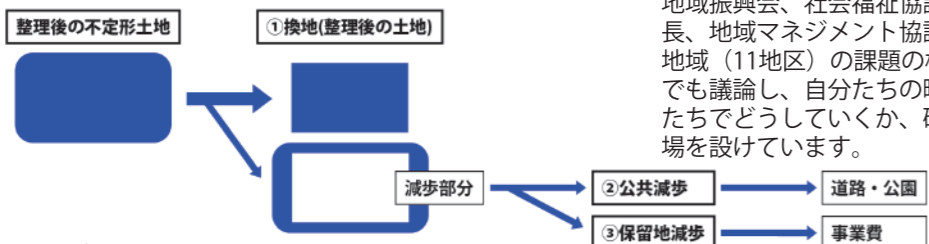


注目⑥港区土地区画整理記念・交流会館 (名越瑛美)

(港区区画整理はなぜ区民の誇りなのか?) 港区は壊滅的な被害を受けた戦災からの復興と高潮への対策を主な目的として、1948年から2022年まで「港地区復興土地区画整理事業」を区域の約9割で約2mの盛土方式で実施しました。これは世界でも類を見ない完全民間主導の区画整理であり、大規模な区画整理には区民の財産40%を使用、また行政のお金を全く使わない珍しい取り組みでした。

(そもそも区画整理とは?) 不定形の土地を定形に整備し道路等を整備する。元の所有者の土地面積は少し減るが、整備されることによって資産価値が上がる!(引用) 以下、成田市「区画整理のしくみ」をもとに作成。

(市民の拠点としての「区画整理記念・交流会館」の活用方法提案) 現在港区では過去の偉業をたたえ、区画整理記念・交流会館整備事業に取り組んでいます。港区を愛する会(港区地域活動協議会、地域振興会、社会福祉協議会の会長、地域マネジメント協議会、各地域(11地区)の課題の検討等)でも議論し、自分たちの町を自分たちでどうしていくか、研究する場を設けています。



シェアリングエコノミーの拠点としての活用方法を提案しました!(シェアリングエコノミー(共有経済)とは?) インターネットを通じ、余ったモノや時間を必要の人に提供したり、共有したりすること。シェアリングエコノミーとは、空間、移動、スキル、お金、モノを共有することです。IT技術の発展・普及を背景に急拡大を続ける新領域。しかし、本人確認と信頼性に問題あり、そこで、交流会館を拠点とすることで安全性を確保できます!

シェアリングエコノミー5大分野	シェアリングエコノミー×拠点活用 事例
① 空間	会議室の提供、区民ホールの活用 (★港区にゆかりのある落語家や劇団によるイベントの開催、港浪曲寄席)
② 移動	交通網のターミナル (自転車、電車、船、車、飛行機) シェアサイクル、時刻表設置 (船、電車、飛行機など)
③ スキル	ワンコイン講座 (例) パソコン、英会話、音楽、海の幸を使った料理教室、生け花、歴史、まちづくりを学ぶ
④ お金	フリマ、アイカサ、ジモティー
⑤ モノ	クラウドファンディング、ベンチャー企業の設立

「港まちづくりタイムズ」バックナンバー

港まちづくりタイムズバックナンバー [http://minatomachi-o.jp/minato% E2%80%90times](http://minatomachi-o.jp/minato%E2%80%90times)

	1年次(後期のみ)ゼミ名「地域実践演習」	2年次(実質半期)ゼミ名「アゴラI」	3年次(実質半期)ゼミ名「アゴラII」	
第1世代(2015年度入学)	1号 (2015年度版15/11/30) 「築港色彩学」A赤レンガ倉庫、Bダイヤモンドポイント、C龍馬、D「静月」、E「Papas」、F「雪花の郷」、G船、H赤レンガ、I安床プラザーズ、Jエンディング(特集)天保山まつり2015、天保山まつり歴史	2号 (2015年度版16/2/25) 「築港伝説」Aキャプテンライン、Bレゴランド、C商船三井ビル「築港麵工房」+ITAIYAKI CAFE、D「ビーハイブ」、E「BONCHI OSAMU」、Fカウントダウン花火、G住吉神社火祭り、H築港高野山豆まき	3号 (2016年度版16/2/25) 回遊都市「みなとぐるくプロジェクト」特集、超小形E V試乗会、同じ観光地である有馬における研究、市大生による交通調査、来訪者4類型、地元の声、小さな交通研究、国交省の全国50カ所事例	4号 (2017年度版17/9/30) 「食ブランドと開港150周年特集、市大生による地域ブランド研究」「地域ブランド公式=ベース料理×地域素材」「スーパーコンシェルジュ公式=世話好き×英語」により大阪Seaグルメ提案「スイーツ提案」、カッターレース
第2世代(2018年度入学)	5号 (2018年度版19/2/25) (港区地域資源「三の謎」)01三津神社、02三社神社、03三先天満宮、04市岡パラダイス、05大阪ベイタワー、(大正区地域資源「おきなニワ」)「花」06「いちゃりば」大正庵、07「みるく」富崎ホルモン、08大正リバーヒルズ、09「チャオ」、10「ヴァンミューレ」、11八幡屋商店街、(インフラ・建築)12渡し船、13泉尾神社、14「人魚橋」、15「大正メイケン」、16尻無川、(教育・アート)17石炭倉庫、18市岡高校吹奏楽部、(シェアサイクル)19セブンイレブン三軒家、20セブンイレブン南恩加島	6号 (2019年度版20/2/25) (水辺景観と回遊都市)「自転車回遊」「なみはや大橋」「菱垣廻船」(海と船の文化)「安治川」(商船高等専門学校)「(集客都市)「商店街とイベント」の連携」グランピック布券で10人に1人が八幡屋商店街へ、(音楽教育都市)市岡高校、港中学校、天保山まつり2019	7号 (2020年度版20/12/30) (コロナ対応特集)「after コロナの有力スポットはオープンエアの健康まちづくり」水辺景観、01安治川大橋、02安治川突堤、05・07阪神高速高架、10タグポート他、(屋外、公園、キッチンカー、オープンカフェ、バー)隠れたスポット、①中央突堤、②船客ターミナル、(公民連携)グランピックス、ベイクルマルシェ	
第3世代(2021年度入学)	8号 (2021年度版22/2/28) 「みなとまちづくりの新たな展開をさぐる大学調査」1.スケートボード(運営のしくみ)、2.スケートボード(当日)、3.クルーズ船、4.ジャズのまちづくり、5.カフェ、6.シェアサイクル、7.銭湯、8.ものづくりからのまちづくり、9.エコマチ	9号 (2022年度版23/3/28) 「新ビジネスアイデア都市」水中ドローン、水上自転車、「アユのすむ環境アイデア都市」「船文化のアイデア都市」菱垣廻船、防災の船、ジャズクルーズ	10号 (2024年度版24/3/25) 「市民のためのまちづくり、地域を活かすまちづくり(まち活用)①ジャズクルーズ、②中央突堤(倉庫活用1)、③赤レンガ倉庫(倉庫活用2)、④公園とPFI、(市民連携)⑤子ども食堂と食育、⑥区画整理会館とシェアリングエコノミー	



編集後記：港まちづくりタイムズ第10号は、未来志向で、地域資源を活かしたまちづくりや、市民のためのまちづくりのアイデアと提案について、公大生による調査研究成果をご報告しました。★本タイムズのバックナンバーは(一社)ホームページ<http://minatomachi-o.jp/>をご覧ください。港まちづくりタイムズ第10号 発行者：産官学連携会議「港区CRテーブル(港区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪公立大学都市経営研究科小長谷・松本研究室)」、「大正区CRテーブル(大正区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪公立大学大学院都市経営研究科小長谷・松本研究室)」、発行日：2024年3月25日、編集事務局：(一社)港まちづくり協議会大阪。



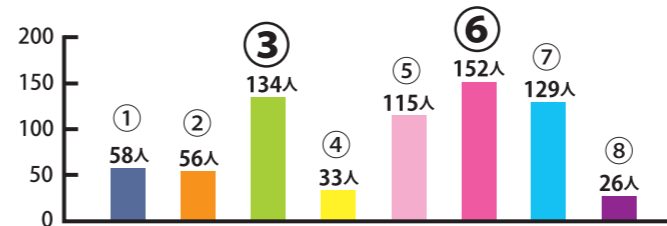
港まちづくりタイムズ 第10号



特集：市民のためのまちづくり、地域を活かすまちづくり

発行者：産官学連携会議「港区CRテーブル(港区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪公立大学都市経営研究科小長谷・松本研究室)」、「大正区CRテーブル(大正区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪公立大学都市経営研究科小長谷・松本研究室)」、発行日：2024年3月25日 編集事務局：(一社)港まちづくり協議会大阪(大阪市港区築港3-7-15 港振興ビル212 06-6572-0017)

クルーズ船と音楽イベントの組み合わせは市民に一番人気!



大阪港開港150周年記念事業アンケート結果「これからも続けてほしいと思うものはありますか(3つまで選んでください)」①大阪港に関するシンポジウム・講演会、②歴史展示会、③大阪湾クルーズ、④大阪港カッターレース、⑤大阪港見学会(こども向け、大人向け、どちらも)、⑥音楽イベント・コンサート、⑦帆船EXPOのような帆船の一般公開・セイルドリル、⑧Sports Fan's Festival in Maishimaのようなスポーツイベント(『大阪港開港150周年記念事業記録誌』より)

注目①ジャズクルーズ



(安東拓海) 港町に音楽はつきものです。その大きな理由の一つとして、海外からの文化は港ではじめに発達するからで、ジャズも例にもれません。そのため2024年はジャズ100周年ということで神戸ではそれを祝うイベントが多く開催されています。しかしあまり知られていませんが、大阪では神戸よりも古くからジャズが始まっていたといわれています。大阪港では約10年前から天保山まつりにおいてジャズクルーズを毎年行ってきました。自分も一昨年、昨年とジャズクルーズに乗せていただき、演奏者の方々にジャズと大阪の関わりについてお話を聞かせていただきました。演奏者さんたちは皆さん大阪でジャズをすることを誇りに思っており、そして今年2023年からはジャズ船が一定期間、定期便が出航していきます。これはジャズ演奏者さんたちの熱意、そしてジャズを見に来られる方々の熱意によるもの大きいです。それに大阪公立大学の学生としてなにか関わることが無いか、ということを相談させていただきました。そしてこの度自分たちジャズ研究会も大阪港でのイベント(ジャズクルーズ等)に参加させていただけることになりました。大阪公立大学と港区とのつながりを今後も続けることができるようにいい演奏をしていきたいと考えています。

2023年9月16日(土)より実証実験「大阪港魅力発見クルーズ」が実施されました。ユニバーサルシティポートから大阪港を周遊(所要時間約50分間)(運航期間)2023年9月16日(土)~2023年11月5日(日)毎週土曜日曜日 18:00からの第8便がジャズクルーズ「JAZZ×CRUISE 五感で旅する 港まち・天保山」以下出演者(10月1日(日))マッシー(コルネット)清水百合子(トロンボーン)宮村群時(バンジョー)凜南(チューバ)(10月7日(土))吉川裕之(クラリネット、ソプラノサクソ)大島一郎(トロンボーン)宮村群時(バンジョー)凜南(チューバ)(10月29日(日))熊谷直子(トランペット)岩田直樹(クラリネット)宮村群時(バンジョー)凜南(チューバ)(宮村氏サイトより) https://note.com/miyamura_gunzi/n/n67bb3e773fe

JAZZ x CRUISE
五感で旅する 港まち・天保山
2023年 9月-11月

日	9月	10月	11月
土	16	14	21
日	17	15	22

港区からのまちづくりの挨拶

2015年から始まった産官学連携会議「港区CRテーブル」につきましては、本年度末に指導教官の小長谷教授が退官されることに伴い、この港まちづくりタイムズにつきましても、本号をもって終了するお聞きしました。これまでに多くの学生の方々が港区をフィールドとして、様々なテーマで活動された記録の蓄積は、港区にとっても非常に大きな財産であり、改めてこの間の取り組みに感謝申し上げます。最終号となりました今回も、学生の皆さんが港区の魅力を感じ、大興奮の新しいまちづくりのヒントとなる示唆に富んだ、大興奮の夢洲で開催され、会場に隣接する港区としましても万博開催を契機として、一層の魅力づくりを進めていくこととしており、港まちづくりタイムズで発信いただいた様々な内容を、これからのまちづくりに生かしていきたいと存じます。最後になりますが、産官学連携会議「港区CRテーブル」をご指導いただきました小長谷教授に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。(港区役所エリア開発推進課長 細江太郎)

まち活用アイデア都市！

注目②中央突堤－倉庫の活用（1）（南野千咲）

大阪港の貿易港としての歴史は、1868年の開港後、1903年に築港工事、築港大棧橋（現在の中央突堤）と市電が完成しました。第一次世界大戦後、貿易が盛んな商工業都市となり、1938・1939年には貨物取扱量日本一となり、1944年に中央突堤が完成し大阪築港の要となりました。大阪港もかつては物流だけでしたが、観光のまちになろうとしています。いま、倉庫がお洒落に活用されだしています。建物を活用するためには2つの形があり、リノベーションが「今ある建物の用途を変えないまま価値を再生する」ことで、コンバージョンが「用途を変更することで価値を再生する」ことです（「三井不動産ホームページ 用語クローズアップ」より引用）。中央突堤は（1）リノベーション部分が、中古車販売「MINI NEXT 大阪ベイ」で、屋内総展示台数120台あります（BMW中心）。（2）コンバージョン部分が、大阪湾を一望できる本格的なカフェ「B&Bay」です。大阪一の夕陽と評判のダイヤモンドポイントと言われる中央突堤は、キリンのようなガントリークレーンと「大関門」の赤白灯台を見渡せると評判です（「MINI NEXT 大阪ベイ公式HP」http://www.next-osaka-bay.mini.jp/ja_JP/home.html）。ディーラーさんにインタビューしましたところ、きっかけは店舗統合で、実物を見たいユーザーさんのニーズを、天候に左右されない屋内展示という形で満たすことが役目とか。クルマはネット販売が主流だが、実車確認をするお客さんは約80%いるとのこと。具体的には、事務所部分と間仕切り壁をリノベーションし、一部元々の壁面を残しているが結果的に雰囲気の良い空間になっています。カフェ部分は海の景色を楽しめるように床レベルを上げているとのことでした。この中央突堤までの間に散策が楽しめるよう、まち歩きを促す観光の要素を並べることを提案します。



注目③赤レンガ倉庫－倉庫の活用（2）（杉村優芽）

築港赤レンガ倉庫の歴史は、1923年に大阪港の第1号岸壁に沿って住友倉庫によって建設され、1999年に大阪市へ譲渡され、2015年に「ジーライオンミュージアム」としてリニューアルオープンとなったものです。このクラシックカーミュージアム部分は用途を変えていないためリノベーションであり、レストラン部分は用途が大きく変わっているためコンバージョンとなります。ミュージアム部分の補強の特徴は、レンガはそのまま骨組みを足して補強、等間隔に柱を立て、瓦から軽い素材である屋根に変更し外からも補強されています。レストラン部分は、床や壁を張り替え重厚感のある空間へと変更しています。魅力ポイントは、中之島や横浜のレンガの建物は見た目が大きく変わっているのに対して、築港赤レンガ倉庫は変わっていない部分が多く時間の経過を感じられるレンガを実際に見ることが出来る点です。活用が面白いです。「AKARENGA WEDDING」現在赤レンガ倉庫では結婚式を挙げる人が増えています！クラシックカーミュージアム内には祭壇がつけられておりクラシカルなムードに包まれたセレモニーを行い挙式後は赤レンガ倉庫内のレストランでウェディングパーティーをすることができ、少人数での挙式・会食、カジュアルな1.5次会、フォトウェディングなど、赤レンガ倉庫の特徴を存分に生かしたビジネスであるといえます。



注目④八幡屋公園－活用と課題（山東美心）

（1）【大阪市の5大公園の一つ】中央線朝潮橋駅から徒歩10分の港区にあり、約12.4ヘクタールもある大きな代表的公園です。大阪市では、大阪城公園、長居公園、鶴見緑地、八幡屋公園、扇町公園は、5つのパークセンターがそれぞれ管理し、それ以外の公園や街路樹は、7つの公園事務所がエリアを分けて管理しています（大阪市ホームページ <https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000082275.html>）。（2）【大阪のいろいろな機能を生んだ母体公園、多様な歴史】1）「運動場機能は長居公園へ」そもそも八幡屋公園は、戦前の（1923年につくられた）東洋一の規模といわれた大阪市立運動場が発祥。しかし1964年に長居公園内に長居陸上競技場が完成して以降運動場は廃止。2）「見本市機能はインテックスへ」1956年に見本市が拡張されたが1985年に南港にインテックス大阪に移転。3）「一時期交通公園として」1972年に八幡屋交通公園が一時的に開園。4）「現在の形へ」1993年に降見本市会場跡地と交通公園を一体化した八幡屋公園として再整備。1996年に大阪プールと大阪市中央体育館が八幡屋公園に移転。（3）【3つのエリアに分かれる】東側のプール、西側の中央体育館、中央の芝生広場の3エリアに大きく分かれます。人気なのは、施設地下化と屋上緑化によってつくられた中央体育館で、1万人のアリーナが地下3階までに埋め込まれ、コンクリート屋根が小山のように緑化されスロープで簡単に登れ頂上からの眺めが素晴らしい。（4）そして市民の憩いが中央の広場です。（公園活性化に努力しているキーパーソンにヒアリング）近くのイタリア料理屋さんciaoの山崎さんにヒアリングを行いました。利用者の方の声を取り入れるために市民の生の声「日常会話」に注意しており、また指定管理より「Park-PFI」など先進的の制度にすべきであるとのこと。活性化は商売としてはイベントを開催して人を集めることが考えられる。しかしながら山崎さんは、公園を楽しんでそのプラスアルファとして何か買ってもらうという考えで、イベント客ではなく公園を日常的に使う固定客の集客を目指している。「八幡屋公園ホームページ」「公募設置管理制度（Park-PFI）について」国土交通省都市局公園緑地・景観課ホームページ



市民のためのまちづくり！

注目⑤子ども食堂－「こうせい親父」食堂「田中食堂」（大迫優斗）

●「こうせい親父」食堂：港晴会館にて、毎月第二土曜日に実施。子ども無料、大人300円、当日の食事のほかに持ち帰りの食品も提供。一階が食事処、二階にはキッズスペース。社会福祉協議会等から食品や金銭補助。取材当日、開催後早い時間はお年寄りが多かったのですが、正午時から子供の姿が多くみられました。運営する人たちは、みんな寄って集って楽しく運営し、子供が親以外の大人と触れ合う事で、地域の人たちの活気があり、雰囲気が良いと感じました。●田中食堂：田中会館にて、毎月第一土曜日に実施。小学生100円、大人300円、当日の食事のほかに持ち帰りの食品も提供。一階が食事処、二階には交流スペース。社会福祉協議会等から食品や金銭補助。もともと従来行っていた独居居住者向けの食事提供サービスからだそうです。最大の特徴は子ども食堂としても規模が大きく食事200人分・スタッフ総数30人もあります。近くの田中小学校と連携、チラシの配布、ボランティアの募集もありました。★わかったこと（多世代交流の重要性）横（同世代）のつながりはPTA等より、形成されやすい。一方、縦（異世代）のつながりは難しい（役職、権利）★（取材の総括）子ども食堂を通して「地域のつながりが強まる」「子ども、親、地域の大人での世代間交流、顔見知りが増える」「地域の人にとっての居場所、コミュニティの形成」「子ども問題の防止：親への支援、子どもの様子を観察」「育：食卓を囲んで対人関係能力向上」「総じて地域の雰囲気が良くなる→移住者にも優しく参画しやすく」などがわかりました。★子ども食堂を食育拠点としてとらえることを提案します！（視点1）食事は人間関係を築く大切な場、コミュニケーション。（視点2）教育面：食文化や扱っている食材について知る機会。そもそも食材は何？どうやって作られている？栄養バランスの良い食事は？好きな物ばかりでよい？地産地消、食文化の歴史。地域の人たちと食卓を囲み、地元で採れた食材を用いる。（視点3）食育面：親への支援：子どもと一緒に親も子ども食堂に来る。地域の人たちが相談に乗る、居場所の提供。栄養状態の観察。

